

FASHION NEWS For Quality People

JULY・AUGUST

7/8

1984・NO.3

SPECIAL SUMMER!

Fashion

**All-Out Swimsuits
Dressed Vacationer**

Special Story

プリミティブに〈ボディ・考〉

FN

表紙——写真—藤井英男
 ヘア—&メイク—新井健生(CLIP)
 モデル—エヴァ
 目次——写真—与田弘志

Chief Editor——平野民子 Tamiko Hirano
 Editors——石郷岡美智、松本智恵子、小林貴生子
 瀧口範子、加藤栄
 Art Director——佐村憲一 Kenichi Samura
 Designer——広村正章、北村一雄、清水正己、加藤智

©FN(隔月刊) 発行人・森賢 昭和59年7月1日発行
 発行所・株式会社流行通信 東京都新宿区市ヶ谷本村町6-1 電話03-235-0791
 印刷・凸版印刷株式会社 本誌掲載の写真、イラスト、記事の無断転載厳禁

SPECIAL STORY

プリミティブに **ボディ・考** ————— 49

WHAT TO WATCH NOW

'84~'85秋冬ロンドン・コレクションから—今井啓子————— 10

FASHION

SPECIAL SUMMER 写真—藤井英男

Part I All-Out Swimsuits ————— 12

Part II Dressed Vacationer ————— 24

This Summer...free, cool and relaxed! 写真—佐藤容一郎——— 74

Breezin'! 写真—坂野豊————— 121

BEAUTY

SPECIAL SUMMER 写真—藤井英男

Part I Dramatizing With Colors ————— 38

Part II Self-Help for Summer Skin ————— 42

PEOPLE

ポスト・モダン・ダンスの旗手モリッサ・フェンレイ—松岡和子——— 87

ENTERTAINMENT

Cinema/パッション・ダモーレ—合田佐和子——— 90

Art/パフォーマンスの距離感—赤瀬川原平——— 92

Sports/L. A. オリンピックのニュー・パワー——— 94

Literature/ガートルード・スタイン—ぱく・きよんみ——— 96

What's Coming ————— 105

LIFE

仕事、社会、女——メアリー・ライ・スターランドの日記より——— 98

SITUATION

World Affairs/私のみる韓国—俞華濬————— 100

Media/CNNとその周辺—粉川哲夫————— 102

Word/記号論とコミュニケーション—菅井達雄——— 104



CATVが大きなメディアになった時 粉川哲夫

日本のフィルター付「CNN」は、アメリカで見るほど迫力がない。アメリカ人はCNNをどう見るか、そして日本人は？ 全国ネットに慣れつつになった日本人の感覚は、50年代風なのか？ 文化的多元主義から一元主義へ移行しつつあるアメリカ人の求めるものは？

アメリカの二四時間ニュース・テレビCNNが日本でも見られるようになるというので大いに期待したが、いざそれがテレビ朝日で始まったのを見てみると、アメリカのCNNとあまりにちがうのがっかりしたという人が多い。本物を知らない人は、アメリカのニュース番組の録画を使った安手のニュース・ショーだと思っている人もいる。

CNNとは、一九七六年に当時はまだジョージア州アトランタの地方UHF局にすぎなかったWTBSをそのオーナーのテッド・ターナーが放送衛星ドムサットの回線を使って全米のCATV局に中継することを発案し、実行したところから始まった。はじめ、CBS、ABC、NBCの全米ネットワークに對抗するため、ハンク・アロンが在籍するアトランタ・ブレーブスの試合を独占放送し、次第に視聴者をふやしていった。そして、一九八〇年六月には、加入世帯一七〇万を対象とする二四時間ニュース・テレビをスタートさせた。その内容は、国際ニュース、国内ニュース、経済、スポーツのニュース、解説、天気予報、インタヴュー、レジャー等にわたり、全米の視聴者が同時に見ることができる。ニューヨークのマンハッタンでは、CNNはケーブル・テレビのNチャンネルに入っており、二四時間放送である。しかし、ニューヨークの場合、二四時間テレビはほかにあるし、またラジオのWINSのようにぶつづけてニュースを流すメディアはまえからあ

ったので、CNNの登場自体はそれほど驚きをもってはむかえられなかった。むしろ、ラジオでは日常化していたことがテレビでも始まったという点で、ごくあたりまえに受けとられたような気がする。

しかし、メディア効果という点から考えると、CNNの出現は、決して小さなできごとではなかった。それは、まずCATVの性格を変えたからである。CATVは、もともと空中波による既存のVHFないしはUHFのテレビ放送を、山や谷などの地理的条件でよく見ることができないといった状態を改善するための難視聴対策として始められた。高台に共同アンテナをたて、そこで受信したテレビ電波をブースター(増幅機)で強めたうえで有線を通じて難視聴区域の各世帯にくばるのである。が、やがてこうしたケーブル回線がふえるにつれて、この回線を使って独自の番組を放送することが始まった。これが、今日言うCATVの端初である。この回線は、程度の差はあれ地域的であり、全米を結ぶことも可能な空中波の放送ネットワークにくらべれば全く小さなメディアであった。が、まさにその地域性がCATVのメリットになり、地域文化を活性化し、地域社会のコミュニケーションの質を変える小さなメディアとしての機能を大いに発揮した。

CATVが地域メディアであるという点はまだ完全には失われたわけではないが、CNNによって先鞭をつけられたCATVと放送衛星とを結ぶことによって地域メディアを一挙に全米ネットのスーパー・ステーションにしてしまうというやり方は、次第にふえつつあり、その影響力は強まっている。地域メディアが全国メディアになると、その地域でしかわからにくい内容の番組は、当然敬遠され、全国どここの地域でもわかりやすい、平均的

容の番組がふえてくる。また逆に、もしある特定地域に固有の性格をもった番組が全国ネットに流されると、その地域は特権的な位置を占め、全国をその特定文化の支配下に置くといった傾向が強まってくる。いずれにしても、メディアの「帝国主義」的な性格が強まり、文化を多様化するのではなくて、全体を一様化する機能をメディアがますます強化する結果となる。

実際に、CNNのニュースをニューヨークで見てみると、ニューヨーク市についてのニュースですら何かよその市のことを報じているような感じがしてくる。この傾向は、全米ネットのABCやCBSのニュースについても言えることで、全然地域性が感じられないのである。この感じは、テレビもラジオも新聞も全国ネットがごくあたりまえの日本ではなかなかわかりにくいことなのだが、アメリカのメディアは概して地域的なもので、全米を同時にネットして、同番組を流してしまうようなメディアは、逆に異様に感じられるのである。それは、いわばアメリカでFENを聴く(それは事実上不可能だが)ようなものだ。日本では、FENはアメリカのラジオ放送と同じものと受けとめられているようだが、FENのような雰囲気をもったラジオ局は、アメリカにはもはやどこにもないとすら言える。FENを聴いたアメリカの友人が、全体の調子が五〇年代風だと言ったのがついでだが、CNNには、まさにそのようなところがある。アメリカには近年までどこでも手に入る全国紙というものはなかったということが信じられるだろうか。かの有名な「ニューヨーク・タイムズ」だって、ニューヨーク市を離れると手に入れるのがむずかしくなる。FMラジオの場合には、極度に地域的であり、自分のもっているレコードをいま聴いている

MEDIA



「これから永久にニュースをお伝えしてゆくことになります」女性キャスターのロイス・ハートが放送の口火を切った。
(写真提供：CNN)

DJ番組で放送させるために放送局までひと走りしてこようかというような気分になせるような身近さがある。

その意味で、CNNやMTV（これは、CNNと同じ方法で全米に音楽番組を流している）は、これまで地域的個性が豊かだったアメリカ文化を均質化する傾向があると言わざるをえない。CATVは、依然として、ミドル・クラス以上の人々の——しかもマンハッタンのような特定地域の——メディアであり、ニューヨーク市でもCATVのサービスを受けられない地域はたくさんある。ということは、社会の支配的傾向を決定する位置にいるミドル・クラス以上の人々が、少なくとも一九八〇年代のはじめまではCATVによって多様な文化をエンジョイし、文化的多元主義を身につけはじめていたのに対して、いま彼や彼女らは、そこから一九五〇年代流の文化的一元主義に逆もどりしようとしているのである。

日本にCNNが入ってくるということをきいたとき、わたしは心配したことは、CNNがもつこうした反動的な一元主義的性格だっ

た。しかし、その心配は無駄だったようだ。テレビ朝日の「おはよう！ CNN」と「CNN デイウォッチ」は、CNNの番組をほとんどリアル・タイムでは流していない。担当者が必要と思われる番組をピックアップして編集し、翻訳字幕や解説を付けて放映している。これではNHKのニュースが衛星を使って海外のニュースを見せるのと大差がない。NHKの場合には、ニューヨークにスタジオをもち、そこから解説を送ってくるからメディア効果の点では、テレビ朝日のCNN番組を凌駕している。

なぜテレビ朝日は、ホストやホステスなしにCNNの生の映像をそのまま放送しないのだろうか？ それは、均質化された「アメリカ文化」が日本にストレートに入ってきて悪影響を及ぼすことを考えた深い配慮なのだろうか？ が、それならば、もともと「情報帝国主義」的性格をもつCNNなどを導入しなければよかったのだ。しかし、事實は、日本のテレビ・マスメディアの自信のなさや教育ママのおせっかい根性がこんな結果を生んでしまったのである。